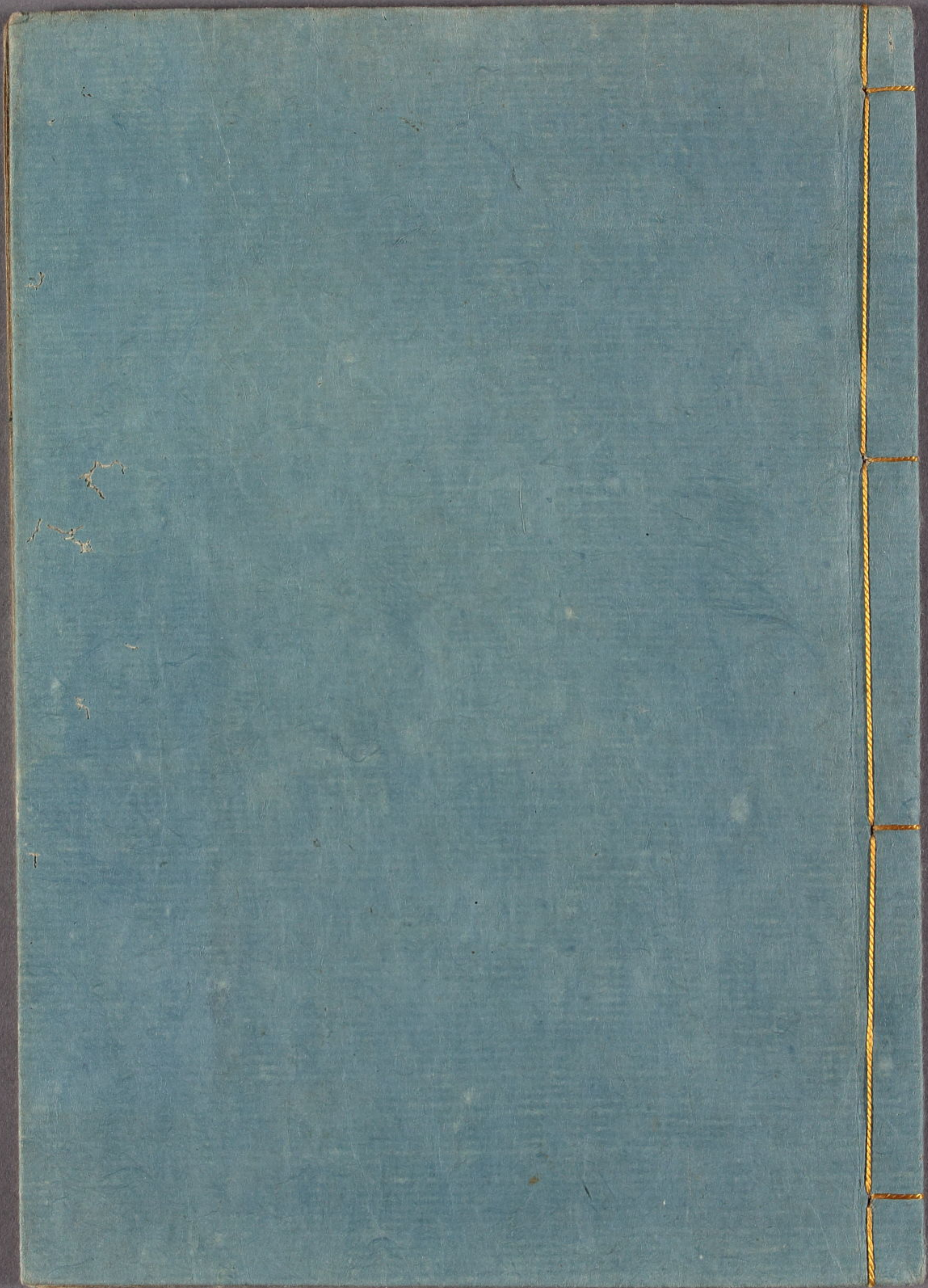




新

新
交

新
交

新
交

新
交
新
交

新
交

新
交

及五千喟之内有風三百
擇露之

寶永三戌歲

六月廿九日限
八月十三日洗認

佛狸齋轍士



月々々々々々

松乃之まゝと鳥居ちく

天番

馬より新ど人か移るる月

孟ても移くハ余所ハあらね事

七日ほどは漬ハ居く月日貝

如るは風リあらね茶弁當

如るは後夜もさく御知人

月代と清江多しハ利あら

さく如く鯛ハ魚荷ハさぬく

想州

白狐

檼州

文憐

長州

勝久

檼州

一齊

檼州

舟路

越州

里步

檼州

竹鼠

折貝とふや子年乃袖乃袖也
船漕な宮の詠哥乃事うき
六番
さゆやとふは秋越る奥とあら
さ家と代と又うあう鴻津石
目乃の追ふとん遠目金
ささりて隔事と事と石乃肌
奥と移く旅秋なるく鳴る舟
居る日に一里小まも川む駕籠
かーいふ花乃花頭毒乃これ

新 民子
全 白揚
新 昌房
武 丁林
新 慈省
新 水奇
新 瑞舩
新 芳風
新 虹山

古哥乃野よとて行 道廣く
渡ーち古歌に讀まふこのさし
育めよ餘りてまゝ啼 夜鷄
由井の濱き一擢よ元江特
豊國ハ狐乃通し道もれー
浦中乃人乃あつたは獅子躍
白丁乃おこさるく旨さるり
木曾風乃簾吹るに所は山
蛤乃風よさるく燈るん

新 文士
新 東雲
濃 尤木
丹 一故
新 塵也
新 吹人
新 如余
新 吟風
長 短步

行多くほくあつたやんき
丸山音人て電ッた志賀く助
十二座、獅子川多や川りき
親里紙尾月ようけて文はく
掃障してまうと利時
大山、負ふと山も岩家 声
金輪火付風よ消れく使日
奥ふぬり我とワるくひし月
十番
声、ひきき送りくハ大 斬

翫 挂枝
翫 三鹿
翫 不訕
翫 祖笠
翫 松風
翫 百步
翫 輕之
翫 知足
翫 雲車

さうとくぐ菩薩も移るや浮心堂
さうとくぐ入る月入る兼弁當
わくわくたききとさ日け難乃首
おいつく成みさう川よすきあけ
京りむえ器量けいしき様せぬ
一時雨くくくかろ 山
淀川やあつとあつちうき屋く
何紙言とさうりえさう石灯籠
名けきい吹りこまりやきの下

翫 柳露
翫 蛭音
翫 山樂
翫 一見
翫 三二
翫 采松
翫 花憐
三所 三吟
全 林風

帆柱は鏡に――そと額　ささ
批灯は消く火繩に――牛馬
傘は牛も舎人ともう眠る
木倉はものまじりまじり寺堂
批灯は三軒　灯は紅　紫
釣ふ糸赤い銅やまじりまじり
大鳥毛奴僕も足も端　玉――
海は水九代り端　麦　畠
海は水はむ――夢――鐘　倉や

筑　風人
勢　佳舌
横　西路
横　夕鳥
羽　富山
横　利重
横　冷風
横　平葉
横　一瓢

ささきにみよ旅人や花　簾
ささき茶は香るぬき下河原
鰯は人なまじり　けしあ
月夜は座は荷繪紙香残　あ
朝はもも狸のけしり清く
管はくさや　月は鏡は案の梅まじり
月白――乙女も袖はみよ　池――
虹はみよいり　山は子り　る
冬はみよあやも散く　土　は　斗

全　常久
武　流木
横　虎風
江　行照
遠　元服
和　石亀
丹　歩雲
遠　掛月
長　調風

あやめ河 臨尼佛

暗くくきんきん焼玉子
 とげあふ海しんきんきんきん
 十徳のうであふ海立条坂
 七番 せうごう代官職の州まき
 まのしんきんきんきんきん
 蚤のうで火入中の一りり
 若くして今世のしんきんきん

芻 挑李
 全 一
 武 水陸
 全 千九
 勢 一之
 芻 且流

戸波おき布 やんば移る秋半也
 入相の鐘しんきん入秋の蟬
 ころうのしんきん焼玉にきんきん
 火燵きんきんきんきんきん
 入解しんきん銀きんきんきん
 庭掃てあふきんきんきん
 使きんきん芭蕉の風り一夜入
 主二人きんきんきんきん
 賤乃女 績草にきんきん

全 越山
 全 栢森
 作 錦子
 全 陸士
 全 吐虹
 全 十口
 芻 可笑
 全 海鷗
 全 廣瀬

一目おちひり持て石を以て
ありつゝさぬきくくくくく
そと切り跡ハ柱ノ片跡あり
いけ平ハ勅書跡ぬき胸のこて
大角カきりくくくくく
證文ハ大丈ハ起請母ハおれ
花ノきり茶金ハいけ今
月ハきりくくくくく餅乃美白め
凡ハく屏風ハくくくくく

濃明 一幸
弱 柳也
三 一休
全 三風
全 忍称
撰 羊角
作 唯是
河 兵木
撰 自鹿

娘入り野乃くくくくく
隣ノくくくくく猪ハ落玉 鉢
七日ハに大用ハくくくくく
番色ハくくハ髪ハくく茶紙入て
双ハけ歌ハく月ハ明ハく
野ハいハくく園ハくく料理人
くくくくく西ハくく自ハく
詠ハく金ハくく古ハく
雪跡ハくく月ハくく五月雨

全 紅風
越 竹馬
播 素山
撰 可松
弱 花列
弱 孝林
弱 出口
全 只來
尾 東崔

夢のきりと凡ハ吹拂とらるる
西國河荷人泣きも一里塚
藤子に越せぬとて一年の宴
羽二重ハ寸さあともくにけ
け凡て一やうや稱ハ籠^{カゴ}あり
片もいハ何こほ色々んう^カ立
然起よれハ東家^カけきやうく
君是れを鼓りちよハおも代

今更ハ鐘^{カネ}したぬ^カの鐘

駿河 雨^カ 丹波 晚水^カ 全 夜水^カ 播磨 渾口^カ 播磨 千手^カ 作州 好風^カ 備前 貞友^カ 丹波 老鳩^カ

糸掛一ノ境服神一^カの伽^カ座
座^カ彈^カ一^カの^カま^カく^カ
古首^カの^カの^カ末^カを^カ難^カ題^カ
咲^カの^カの^カの^カ切^カの^カ負^カ
ふ^カの^カの^カの^カの^カの^カ
新^カの^カの^カの^カの^カの^カ
は^カの^カの^カの^カの^カの^カ
月^カの^カの^カの^カの^カの^カ
歌^カの^カの^カの^カの^カの^カ

丹波 昼錦^カ 加 霞竹^カ 播 穴視^カ 加 狩素^カ 河 雪山^カ 棋 二川^カ 備 一峯^カ 武 八虹^カ 播 孤松^カ

長 一 林 出 播 一 全 如 水 加 一 小 齊 竹 壽 全 一 排 上 一 華 角 三 一 千 兩 遠 一 哥 葉

冊 全 作 武 播 全 撰 全 全

柳景 家種 如鉄 黛山 重好 今是 雜志 一帆 旭之

三三判さきは死うくと持
口も番子成 泣く 赤家 神

河 越鳥
全 一扇

龍呂利

引 捨ち方々 消ふ 大父子
凡そく 州 里 煙家 大父子
細妻 白落 心 穂乃 重
御い 赤家 河乃 鐘に 引 以 依
高橋乃 上て 角 赤 蝸牛

江 二笠
播 孤帆
加 一ウ 碎
全 一風
全 斤 固

武番

きく お鳴多に 年 城あてうて
月も 伏え乃 城 御 落 赤
煙 副ハ 多所 多 赤 髪
虫乃 声 庭乃 先乃 金乃 赤
やく 論 諸 すすむと 小獸 面
赤乃 上乃 赤 母 多 釣乃 赤
心乃 赤 赤 赤 赤 赤 赤
五番 夕 食ハ 隅 田川 赤 赤 赤 赤
山住 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤

全 夏丸
播 柴牛
武 三步
播 重久
棋 岩松
播 好列
棋 人丸
長 艸鹿
河 隱翫

居家ハ多クありし世は三十九
 御一退居ハ主屋を――よき世に
 茶屋へ入度いこりしけり揚屋
 三々くは戸行つて完、自ら家
 乳房より中へきり利てそ
 朝のしきむらうきけり露うち
 江戸は世々としてありし風中
 九番
 縁ありし世に勝越ハ知悉
 塩ハるふ三里りしとさし浦

作 三木
 全 退市
 相 只頼
 全 一平
 濃 竜軒
 相 野松
 全 尋松
 模 鳳枝
 敷力

一室中よ六十余味ありし
 田極し奇三味線ハ琉球人
 為小子は金葉ハ形目し
 髪並ハ娘密料ハ極し
 哀さよ明々鐘きく新町親
 乳母ハ膝這りし子ハ一里塚
 乙玄帳しきや玄冥ハ足跡
 悉くする路地ハきけりし
 あり世々額ハ浪うしりて事

加 林泉
 全 吉正
 勢 東水
 駿 公明
 全 柳枝
 全 藤林
 三 更衣
 尾 宝槌
 遠 堂清

ねもくま屋うくお狂作
 鬚鬚の河實盛子あやうて
 牙請て是を虫に八ん
 神月と何ぞく流る鼻進
 三枚目引たころ玉手箱
 秋の蠅うたてはく蜂の
 秋杭河ぬも二艘も船力
 艸鞋或膝にもくく狐釣
 突當ふ障りも蜂
 花の

遠傳水
 駿宗忠
 丹元服
 全笑艸
 三翠葉
 全把木
 全一色
 江花階
 全擴亭

親の糸馬は難し忍あり
 あり火で蚊が焼も母の世話
 へいり子に書け生ふり
 年一暮り事れは道案一跡居
 自思の氣食く藤の
 晴ふ旁はむくやに瓜生山
 一隅いびきさの娘んところ
 月自く節會の庭の雪も
 大さか痛のやや背中うら

和一景
 全玄石
 尾野松
 三金鐸
 江古川
 甲立唯
 勢和山
 全花鳥
 越不卜

おくぬけの船はあゝにやうな
 足はまてゝゝ歳とくそと返る
 いふれとてあつゝ虹の消ゝと
 墨もはて行成郷の御てし
 八番 女中ゝと先醫師ゝと花見え
 沈の面一葉二葉とてさへ
 へるゝ氷乃の雪はけ 魚も飛
 引導りゝむゝ和尙の生 如ま
 舟と隣もゝと入ふゝ乃月

播 野徑
 武 丹我
 播 國枝
 武 由木
 模 里々
 全 晩母
 長 残虫
 播 矢子
 勢 一水

唐のまゝゝあつゝ糸もみやこ
 身はけ 龍は地よ三二四五
 矢の牡丹口の隠も家世に
 花よりいの字はとるゝ人
 白砂ゝと帯目付ゝ御成道
 ちきゝ君行 清紙もな系
 中紙打てゝゝ 報喜家法
 花よりゝとけまけゝ又百文
 金りゝけたゝとけと名と入て

全 了拙
 汗 奥首
 全 見竿
 全 玉磬
 全 可ト
 長 良利
 全 政春
 播 赤崔
 勢 コ科

勝銭とすーにほかつて膝の下
夜名ハおまふか長持とてし聲きき
一陽の用けとむ光の^{エウホ}驚えん
婦取て初寝の床も家お秘事
執つゝ人ときほ秘の姿とて
立まると越ぬハもるゝ消てゝ
りりり又まぬくもは梅さゝ
あを接はる斗もは菜螺ゝ
大寺は猪もるんきありのこのあ戸

勢 茂林
棋 一南
三 老松
加 賤流
全 一ト
越 遼准
江 松風
加 坊月
全 耳水

十二時まゝ中村銀一に
昔を命一と龍鳴く追むる鳥
あつゝ仕てて後家よお大雄
寝入てももき初やゝおとあそ
あ銭家小川も暗家右所也

勢 不盛
全 外玉
丹 松風
棋 風水
江 義角

観て足れハ観今にりて

化の屋ああろ割も者
化の屋ああろ割も者
武 入山
棋 之上

泊里く牛若殿もいふ花
萩も露も月落かゝる水鉢
松枝も間り月折針くし
御も鏡折指にほめて鏡花
福急ハ素生壁も京法生
今五つ撞てくれぬうけ鐘
秋も戸折れ花も枝も月雨
掛もは行ていふぬ御家元
御意酒もまじりて小宰相

模 相 丹 和 全 遠 三 模 全
坡 呼 正 習 富 三 千 星 川
浪 山 通 奇 水 組 兩 船 鈴

巻頭

是く井筒にもいふ男
方丈も庵もいふ也いふ
河柳もいふ髪もいふ髪
常くいふ人くや、純母子
波もいふ河も都も声あきぬ
作渡も鴻外もいふあきへ
人殺もいふいふ武士
罵も来て鳴ぬれ来ぬも毒

全 作 勢 河 全 勢 全 長 播
少 因 卜 田 長 栗 稻 秋 龍
人 風 子 龍 方 之 紅 露 水

醫師の人の薬をきいてやうも
茶碗にのりあつてあつた人
武士の意はあつた人
曲曲や何度行てもあつた人
君よあつた牡丹よあつた人
あつた人あつた人あつた人
あつた人あつた人あつた人

作 全 如 全 全 越 甲
矩道 沢水 三笑 蘭、 利曲 如柳 又咲

おとなもすうらむ

夕立、桶と柄杓、よや付け
 花も青もいほをえらん立テ鏡
 月代乃下もや咲橋乃う残し
 りくも文子とておふ一文字
 親りまは子を殺せしこゝ鳥
 熊谷の人目やりとぞ数感ひ
 ちまたより買へん菩薩な世に
 さる人峯にのかりて京は云
 金沢才繪島又合まぬもの者

武 擣 勢 相 全 和 遠 越 尾
茂 芦 い 硯 志 津 遠 風 巴
口 風 乃 月 樂 川 梅 車 里

心空冥口をうんちうあり
川越は銭の行ふぬ井川
赤のうら白のうらぬ湯の
金銀よきうけけぬ友智屋
奴僕ぬむ眼はしやさむ髪
急件と嘔りうぬぬらぬ般
あまの事社めうに目まら
双たあうう人うううき
はと和讀もとううは

武如見
播政長
勢一松
加仙峯
越五子
武竹光
備森雷
棋車輪
加啟命

青具屋ハ白ハ誠代あう精
ほ白きうれき方出の山金わけ
近付う育もあう目いや宿
牧方乃夜合よ起ふ人乃勢
今糸と足うぬぬらぬ遠小
ろ武者乃勇小う梅をき
持ううか棋とすあて精とむ
腰りとうあうんせまた深りや
うにあう一解はうぬ美け加

播ウ江
河松星
長万水
河水力
棋水之
加是笑
播一由
全勝重
加包月

布衣家ハ破ラズヤ子ハ好
 世ノ世話ハ陽屋ナリ亭主垢
 垢離シテ移リ有ヤ水ナリ
 多ク人テ利ナク死シタル處
 也一之をれハ口有丸行燈
 此ハ借カ寺ニ寄入ノ佛庫
 疾切テ音ンク遊儼ハ大豆湯
 此ノミヨウ射ヤニリヤ持
 順礼ハ土産ニ書也此ハ後寺

丹 吟水
 三 清五
 江 海道
 和 元勝
 三 一銃
 甲 二箭
 加 塵志
 和 卯月
 全 雪松

入唐ノ人ハ母胎強出リリ季
 後所ノ元ハ治ナク有和方有
 一ヤウテ鼓ノ滝ナリ人ハほ

丹 一檣
 横 如鏡
 加 錫軒

金光

立雛ニ踏哥ノ乃袖リナ
 自筆ノ前ハ髪ハク根ナリ哉
 子誰モ前トシテ一衣更
 次得ノ髪ハ引水也ハ濁王

加 重周
 甲 二箭
 加 素石
 越 五子

虫干や凡よりくまはた般若
歸まの 歸るは 吾も 寂のや
噫まの へたすはすも 哉
初きは 便を 定し 玉子 酒
人足の まは やうで まる 時 雨 哉

遠^加 遠梅
遠^丹 林重
勝丸
丹 真空
加 花永

切句

三月才で 筆を にく 曆 くれ
ちぐく 拙の 蝶も ちの 春

全 一薰
上 不吟

ちちく 國人 一 一 一 鷹 燕
七ウハフ 中 紙 びの 一 一 瓜 の 皮
十ぐんふ あを 清水 の ちの 水
ちちく ちて へち ち 蛙 ぐけ
セウハフ 衣 ちの 一 一 秋 の 月
ちちく ち ち 御 ちの ちの 月
十分り 鳴き ちの ちの 虫
十分り 鈴 ちの 海 ちの 金 ちの 穴

加 松葉
丹 呂波
播 琴風
加 松竹
相 ト旅
接 牧子
作 足女
丹 一袋

井筒屋 庄 女 衛 板

初

朝霞虎古鳥

朝霞虎居

朝霞虎居

朝霞虎居



